【ジャズ後】オークラ ミカ『ノーバディ・エルズ・バット・ミー』発売記念ライブで対応力の高さを確認

富澤えいち | 音楽ライター／ジャズ評論家
2016年5月30日 1時35分配信

ツイート　シェア 77　B! 1

自宅に帰って湯船につかりながらノホホンと感想を書きとめようかな、という感じのヌル～いライヴ・レポート。今回は、ヴォーカリストのオークラ ミカが開催した関内BarBarBarでのレコ発ライヴ。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

オークラ ミカのデビュー・アルバム『ノーバディ・エルズ・バット・ミー』をジャズ専門誌のディスクレヴューで担当する機会があった。このアルバムは2015年10月に限定発売されたが、好評のためにリマスタリングを施して改めて発売されたという“いわく”が付いている。

さすがに自分のPCで処理したものを製品化するまでには至っていないが、ミュージック・コンテンツを制作するハードルは10年前に比べても格段に容易くなっている。20年前とは比べるべくもない。

パフォーマンス・アーティストにとっては願ってもない世の中になったとは言えるものの、果たしてお手製のアウトプットを世間が“作品”として認めるのかという、新たな問題を解決しなければならない事態も招いていると言えるだろう。

そうした状況を考えると、オークラ ミカの限定制作盤が装いも新たに世の中に広まるというこのエピソードは、彼女にとって実績を“上振れ”させる出来事となったことになる。

♪　レコ発らしいハプニングに客席も一体化

当夜はボクの仕事の都合で、3セット・ステージのラストに駆け込むことになった。

メンバーとともにオークラ ミカがステージに登場すると、ピアノの加藤英介が歌も得意という話題になって、その加藤が「オール・オブ・ミー」を歌い始めるという展開に。

有識者・専門家がニュースに切り込む
「Yahoo!ニュース 個人」のオーサーによるコメントをチェック

個人アクセスランキング（エンタメ）
1 最近の「朝ドラ」、その人気の理由は？
碓井広義 2016年6月19日 1時23分
2 参院選も都知事選も、“有名人だから”って投票するの、もう止めません？
渥美志保 2016年6月19日 13時53分
3 【今月の激押し】目的のためなら恋にも落ちる、彼女は人間か、AIか、それともただの女か。
渥美志保 2016年6月18日 19時59分
4 「ウルフ・オブ・ウォールストリート」が、今なおディカプリオを苦しめている
猿渡由紀 2016年6月18日 8時0分
5 倉持明日香、「AKB48」を出て初めて分かった2つのコト
中西正男 2016年6月17日 9時33分
6 小室哲哉19年ぶり台湾公演で、新人ガールズグループのフル・プロデュースを発表
ふくりゅう 2016年6月19日 22時8分
7 女の子たちは純粋に楽しんでいるだけなのに、世間はそれを「性」に結びつけて非難する。
渥美志保 2016年6月15日 11時39分
8 紳助さんが語った「鑑定団」の真実！ベッキー騒動にも言及
井上公造 2016年2月2日 17時30分
9 やっぱり、クドカンから目が離せない！
碓井広義 2016年6月15日 14時5分
10 吹石一恵、あの福山雅治を射止めた表顔とは？

このハプニングで客席も大盛り上がりとなったが、加藤は『ノーバディ・エルズ・バット・ミー』のプロデュースとアレンジを担当していることもあり、期せずしてレコ発に花を添えるパフォーマンスになったと言えるだろうか。

ステージはそのまま「ザ・ソング・イズ・ユー」「ワルツ・フォー・デビイ」「デヴィル・メイ・ケア」「ピール・ミー・ア・グレープ」「シャイニー・ストッキングス」「チェロキー」と進む。

緩急をうまく織り交ぜ、オークラ ミカというシンガーのリズム感の良さと歌詞の消化度の深さをコンパクトに味わうことができるプログラムと感じた。特に「ワルツ・フォー・デビイ」は6拍子でスウィングするという難しい課題をはらんだ曲だが、アレンジに頼りすぎることなくテンポを自分のものにして歌いこなしていた。

また、「ピール・ミー・ア・グレープ」のような女性の複雑な感情を綴った曲での脚色も見事で、ステージ映えする内容と言える。

抜けのいい高音部を効果的に使った「チェロキー」を歌い終えると、客席からはアンコールの拍手が湧き上がり、「ルート66」でこれに応えて終演。

振り返れば、（3セット目に駆けつけた自分が悪いのだけれど）レコ発なのにアルバム収録曲をひとつも聴かずに終わってしまったが、それはまたリマスタリング盤を家で聴く楽しみとして取っておこう。それよりも、アルバムに収まりきれないレパートリーと成長具合を見せてくれたことにより、オークラ ミカへの期待度をさらに高めることになったステージと言えるだろう。

★オークラ ミカ1st CD『 Nobody Else But Me 』リニューアルリリース記念LIVE

開催日：2016年5月29日（日）
場所：関内 BarBarBar
出演：オークラ ミカ（ヴォーカル）、加藤英介（ピアノ）、池田イケメン潔（ベース）、横山和明（ドラム）

富澤えいち
音楽ライター／ジャズ評論家

東京生まれ。学生時代に専門誌「ジャズライフ」などでライター活動を開始、ミュージシャンのインタビューやライヴ取材に明け暮れる。専門誌以外にもファッション誌や一般情報誌のジャズ企画で構成や執筆を担当するなど、トレンドとしてのジャズの紹介や分析にも数多く関わる。2004年『ジャズを読む事典』（NHK出版生活人新書）、2012年『頑張らないジャズの聴き方』（ヤマハミュージックメディア）、を上梓。

jazz_aet
aet10330
100057043585629930636/

official site
富澤えいちのジャズブログ

富澤えいちの最近の記事

【ジャズ前】ヤン・ラングレン・トリオ来日ツアー2016 6月6日 0時26分

【ジャズ後】オークラ ミカ『ノーバディ・エルズ・バット・ミー』発売記念ライブで対応力の高さを確認 5月30日 1時35分

【ジャズ前】フランク・カタラーノ＆ジミー・チェンバレン・クインテット@丸の内コットンクラブ 5月8日 17時8分

中西正男 2015年10月10日 5時0分

もっと見る

個人の書き手も有料ニュースを配信中

iOSで進化するiMessageはLINE対抗にあらず 石川 温の「スマホ業界新聞」Vol.183

ブックメーカーが３番人気に推すスペインを、優勝候補の本命に挙げたくなる理由。

「債券は戻り売りに押される」牛さん熊さんの本日の債券（引け後）2016年6月17日